

ローマ人への手紙第十八回質問

18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。

19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが生んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。

20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、

21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。

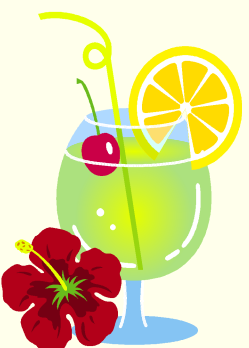
(ロマ四章一八―二二節／新改訳)

(問一) アブラハムが疑いを持つ可能性があったのは、彼が置かれていたどんな状態のためですか。

(問二) 18―21節から、アブラハムの反応を描いていることはを拾い出しましょう。

(問三) アブラハムの信仰の程度は、何によってわかりますか。

(問四) 人の目から見ると不可能と思われるような約束を、なぜアブラハムは信じましたか。



強い信仰、弱い信仰

(ロマ四章一九―二二節)

わたしは以前、信仰というものは、あるかないかであつて、大きいとか小さい、あるいは強いとか弱いということではないのではないかと考えておりました。ところが、この個所においても見られるように、「その信仰は弱らなかつた」とか、「かえつて信仰において強められ」という表現が、聖書の中には出て来ます。それに、主イエス(1)ご自身も、「ああ、信仰の小さい者たち」とか、「あなたの信仰は大きい」と言われました。そこで、きょうはこのことについて聖書から教えられたと思います。

確かに、聖書は、弱い信仰があることを認めています。そして、それはまたわたしたちの経験するところでもありません。その弱い信仰というのは、また小さな信仰であり、消えかかっているような信仰です。たとえば、主がペテロに対して、このような言い方をされた時のことを見てみましょう。それは、マタイによる福音書一四章二二―三三節にしるされている記事の中に出て来ます。主イエスが祈るために弟子たちと別れ、弟子たちを舟で向こう岸へ行かせておられた時のことでした。主イエスはガリラヤ湖の上を歩いて、舟に近づいて来られました。それを見た弟子たちは、人が湖の上を歩くことなどできるとは思っていませんから、それを化物だと思つて恐れしました。しかし、それが主イエスだとわかると、今度はペテロが、主イエスと同じように、湖の上を歩いて、主のみもとに行かせてほしいと、せがみました。主が「来な

さい」とおっしゃると、ペテロは水の上を歩きだしたのです。実に不思議なことがこの時起こりました。ところが、彼が風を見て、恐ろしくなると、沈み始めました。そして、主に助けを求めた時、主が仰せられたみことばがこれでした。「信仰の小さい者よ、どうして疑ったのか。」主は決してペテロに「信仰のない者よ」とは仰せられませんでした。「小さな信仰」について、主はとがめていらっしやるのです。しかし、「小さな信仰」とは、やがて「大きな信仰」になる可能性を秘めた信仰でもあります。

もう一つの例を見てみましょう。それは、ルカによる福音書八章二二―二五節にしろされている記事の中に出て来ます。これは、主イエスと弟子たちがいっしょにガリラヤ湖で舟に乗っておられた時のことです。ところが、主イエスはすぐに舟の中で横になられ、眠ってしまったわれました。すると、暴風が起こって、舟は大波をかぶり、沈みそうになりました。恐れおののいた弟子たちは、主イエスを起こし、「先生、わたしたちはおぼれ死にそうです。」と言いました。すると、主はこう言われたのです。「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」この最後のことばは、マタイによる福音書では「ああ、信仰の小さい者たち⁽³⁾」となっています。この「あなたがたの信仰はどこにあるのか」という言い方は、彼らの信仰が自分たちである限定をってしまったものであることを暗示しています。

また、もう一つの例を見てみましょう。それは、マルコによる福音書九章一四―二九節にしろされている記事の中に出

て来ます。主イエスが三人の弟子たちといっしょに変貌の山から降りて来られますと、黒山の人ばかりがありました。その中にいたひとり男が主イエスのところに来て訴え出ました。それは、その男の息子が聾啞の霊につかれ、てんかんを起こすというのです。そうしている間にも、その息子はひきつけを起こし、地面に倒れ、あわを吹きながら、ころげ回りましました。その息子の父親は、実は主イエスにいやしていただくかと思つて来たのですが、主は変貌の山に登っておられて留守で、残っていた弟子たちにはいやすことができなかったのです。息子の父親は申しました。「もしおできになるものでしたら、わたしどもをあわれんで、お助けください。」すると、主はこう仰せられました。「できるものならなどと言うのか。信じる者には、どんなことでもできる。」すると、その父親はすぐに申しました。「信じます。しかし信じられないわたしをお助けください。」確かに、この父親にしてみれば、これまで何回となく人に勧められ、いいと言われる医者や祈禱師などの所へ行つたのでしよう。そして一るの望みを抱いて行きながら、いつも失望して帰つて来たに相違ありません。ですから、そのような過去の経験を持っていただけに、「信じます」と言いながらも、信じきれない自分を見出さざるをえなかつたのでしよう。しかし、その信じきれないでいる自分を助けてほしいと求めている姿は、確かに信仰なのです。ですから、主はその弱い信仰を助け、強め、息子をいやしておやりになりました。

この具体的な例に加えて、主が教えておられるところに耳

を傾けたいと思います。それは、この同じ出来事をしるして
いるマタイによる福音書にしるされているところでは、主は、
こう仰せられました。弟子たちが悪霊を追い出すことができ
なかつたのは、「信仰が小さかつたからである。ほんとうに
わたしはあなたがたに言う。あなたがたがからし種一粒ほど
の信仰を持つなら、この山に、ここからあそこへ移れと言え
ば、それは移るようになる。そして、あなたがたに不可能な
ことは何もないようになるのだ。」⁽¹⁾ここでも、主は信仰に段
階があることを暗示しておられます。小さな信仰がやがて大
きな信仰になっていくのです。

主が称賛しておられる信仰の場合を見てみますと、スロ・
フェニキヤの婦人⁽⁵⁾と、ローマの中隊長⁽⁶⁾がおります。彼らは、
「大きな信仰」と言つて、称賛を受けています。これは、確
かにすばらしい信仰です。しかし、このような信仰も、最初
からすばらしい信仰であつた場合もありましょうが、最初は
弱く小さな疑い深い信仰であつたものが、やがて主によつて
強められ、成長して、大きく強い信仰になっていく場合もあ
ります。

それでは、小さく弱い信仰が強められ、成長し、大きく強
い信仰になっていくためには、どうしたらいいのでしょうか。
まず第一に、神についてよく知ることです。これが非常に重
要なことです。アブラハムの場合、「神は約束されたことを、
また成就することができると確信した」と言われていますが、
神について深く知ることによつて、この確信が与えられたわ
けです。しかし、アブラハムがこのような確信を抱くように

なったのは、神について知ったことを自分に適用したからです。主はこう仰せられました。「幸いなのは、神のことばを聞いて、それを守る人たちです。」⁷神についてみことばから知ったことを行なうのは、信仰です。自分に適用しない頭だけの知識は、かえって人を傲慢にします。神が喜ばれるのは、頭だけの神知識ではなく、自分に適用した、謙遜な信仰です。ガリラヤ湖で主イエスといっしょに舟に乗っていた弟子たちが、暴風に出遭って、彼らは主イエスについて日ごろ知っていたことを、その場に適用しませんでした。彼らは確かにその時、信仰を持ってはおりました。しかし、その信仰はいったいどこへ行ってしまったのでしょうか。その時全く働かなかったのです。主は、「どうして今この場に、その信仰を働かせないのか」と言って、弟子たちを責められたのです。しかし、主はあの時の弟子たちだけでなく、わたしたちに対しても、信仰を適用しないで、とまどっている時、同じように責められるでしょう。あなたは確かに信仰を持っておられます。しかし、今あなたが当面している問題に、それを適用しようとしておられません。ですから、問題は解決されないので。問題だけを見て、恐れおののいてはいけません。問題を解決してくださる主がおられるということ。そして、その主があなたを助けてくださろうとしていることを覚えてください。

ここで、ちよっと、本当の信仰と向こう見ずの信仰との違いについて考えてみたいと思います。強い信仰というのは、単なる向こう見ずの信仰のことではありません。強い信仰に

は、必ずみことばによる裏付けがあるということです。みことばによる裏付けなしに、ただむやみやたらに信じるのは、妄信のたぐい입니다。みことばによる裏付けがあるとき、必ず「信仰において強められ」その結果、「栄光を神に帰」すようになります。

ヘブル人への手紙一章には、信仰の偉人たちのことがしるされています。彼らもわたしたちと全く同じ人間でした。それでは、彼らが強い偉大な信仰を持っていた秘訣はどこにあったのでしょうか。彼らは、神をよく知っていました。神を深く知れば知るほど、信仰は強められていきます。そして、神に栄光を帰していました。そして、神とそのみことばに全く信頼していたのです。その点について、わたしたちは自身に、それを適用してみようではありませんか。主は、弱くて小さな信仰を、強くて偉大な信仰に成長させてください。それには、普通プロセスを経なければなりません。うし、時間がかかります。それに、神を知るという場合、それは一時的な知識としてではなく、個人的に親しく神を知るということが必要です。それには、聖書を読むとともに、主の臨在のもとに時間をとり、主を待ち望まなければなりません。そして、具体的な問題に直面した時、その神知識を自分のその問題に適用することです。その時、神がいかに真実であるかということを知り、あなたは確実に成長しています。

注(1) マタイによる福音書六章三〇節、八章二六節、一四章三一節、
一六章八節。

- (2) マタイによる福音書一五章二八節。
- (3) 同書八章二六節。
- (4) 同書一七章二〇節。
- (5) 同書一五章二一―二八節。
- (6) 同書八章五―二三節。
- (7) ルカによる福音書一二章二八節。